

多文化共生の推進に関する研究会（第2回）
議事概要

（1）開会

（2）議題

1. 多文化共生に関するアンケート結果（暫定版）の報告について
2. 総務省による自治体ヒアリングの結果報告（豊橋市）について
3. 委員による自治体等の多文化共生の取組報告について
4. 多文化共生にかかる優良な取組の共有手法について
5. その他

（3）意見交換

多文化共生に関するアンケート結果（暫定版）の報告に、総務省による自治体ヒアリングの結果報告（豊橋市）、委員による自治体等の多文化共生の取組報告及び多文化共生にかかる優良な取組の共有方法について、それぞれ意見交換を行った。要旨は以下のとおり。

- 多文化共生に関するアンケート結果（暫定版）の報告について
 - ・ 多文化共生の施策を単独で策定している場合と、国際化施策一般に関する指針・計画や総合計画等の中で多文化共生施策について記載している場合で取組状況に違いがあるかどうか、分析してみてもよいのではないか。
 - ・ JET プログラムに関連して自治体国際化協会がこの秋から事例集を作成している。事例集の中でベトナム人の急増を受けてベトナムから CIR を呼んで配置したという事例も掲載している。ベトナム人は全国的に急増傾向にあり、今後、ベトナム人 CIR を配置する方向で動いている都道府県もいくつかある。
- 総務省による自治体ヒアリングの結果報告（豊橋市）について
 - ・ 通訳等の配置の取組の財源は、自治体にとって気になる部分である。
- 委員による自治体等の多文化共生の取組報告について
 - （外国人地域サポーターの担い手について）
 - ・ 外国人地域サポーターは現在日本人の方にやっていただいでいて、50～60代ぐらいの方が多いが様々で、他の仕事をしながらやっていただいでいる人もいる。
 - （子ども不就学ゼロ作戦にて、高校生以上の年齢で就学・就職していない方の把握につい

て)

- ・ 積極的に高校生以上の、就学年齢を超えた子どもの把握は行っていない。相談があれば就学支援教室に通えるように手配を行っている。

(自動翻訳機を活用した取組事例について)

- ・ 自動翻訳機の導入はしていない。タブレットを活用した三者でコミュニケーションを行う通訳システムの導入事例はあるのではないか。
- ・ 予算次第で来年度より自動翻訳機を導入予定の自治体はある。試験的に何度か使用を試みたが、何年か前に使用したときよりずいぶんよくなったと思う。しかし、まだ翻訳に誤り等は多い。

(市内の大学との連携で得られた効果について)

- ・ 外国人市民の声を施策に反映させる機関として外国人市民共生審議会というものがあり、とりまとめ役をしていただいている。また、複数の大学の学生が集まってチームになり、自分たちが経験した日本の文化などの生活情報等を後輩に教えている。

○ 多文化共生にかかる優良な取組の共有手法について

- ・ 相談自治体に対して、ニーズを把握した適切なアドバイザーを選定ができるかのマッチング部分が非常に重要である。
- ・ 最近行政資料等を外国人向けに簡単な日本語にする「やさしい日本語化」の研修に取り組む自治体も多く、分野別でアドバイザー名簿を作成するのであれば項目にする
とよい。